

のか。

⇒類似団体と比較して経常収支比率より営業収支比率が大幅に低いということは、営業活動に伴う収支が安定していないことから、業務の包括的な契約による委託料の削減や動力費の契約内容の検討など全国の事例を踏まえて調査研究を行っている。

・将来的に料金改定を実施する場合は、費用削減の取り組みを十分踏まえたいう
えで必要額を精査していただきたい。

事務局より下水道事業会計の決算について説明

・関東地方でゲリラ豪雨があり河川が氾濫しているが、桑名市の雨水ポンプ場はどの程度の排水能力があるのか。

⇒10年確率または8年確率で整備しており、時間61mmから66mm程度の雨量に耐えることができる施設を整備している。

・排水能力を超える想定外の雨量があった場合、どのように対処するのか。雨水浸水対策について市民ができる限り不安を感じないような取り組みを行っていただきたい。

⇒施設の更新については補助金を活用し、定期的な整備更新により能力を確保していく計画であるが、機能強化により排水能力を大きくすることは困難な状況となっている。ゲリラ豪雨の場合であっても、雨量の変動に合わせてポンプ場の効率的な機械操作を行うとともに、浸水を防ぐためのパトロールや調整池、集水枘の清掃等の日常的な点検を合わせて行うことで対処している。今後の浸水対策については、全国の事例を研究し対応を考えていきたい。

・下水道普及率は計画どおりに上昇しているのか。

⇒令和8年度に下水道普及率約90%となるように目標を設定して事業を進めている。下水道事業団へ委託している大規模工事第1期分が終了する令和元年度においては、大きく数値が上昇する見込みであるが、現時点では目標を少し下回る状況となっている。

・営業収支比率が100%未満であるが、今後の経営において問題ないのか。

⇒下水道事業は水道事業と比較すると数値は低い。三重県下の他市の数値と比較すると高い水準であり、どこの市町も苦勞している状況であるが、本市については70%台となっている。

(2) その他

事務局より、今後の審議会の予定について連絡

3. 閉会挨拶

上下水道部長より挨拶

(以上)